



千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)
電話 (鉄電) 千葉2935・2939番
(公) 043(222)7207番
FAX 043(224)7197

2000.12.21 No. 5242



全組合員の力を結集して 京葉支部第13回大会

京葉支部第一三回定期大会が二月一日、千葉パークサイドホテルにおいて開催された。大会は、議長に平野代議員を選出したあと、冒頭あいさつに起った石川支部長は、「支部として一年間全力を尽くした闘いを積み重ねてきた。とくに春闘段階での検修部門の地上勤務者、営業関係の強制配転者のスト決起が今日の情勢を新たに築いてきたと言える。シニア協定業務の全面外注化攻撃の焦点は、当面、検修部門となっているが、全組合員の闘いとして取り組んでいきたい」と力強くあいさつを行なった。

つづいて、本部より来賓として布施副委員長より、動労千葉第二九回定期大会以降の情勢についてあいさつを受け、①、解雇撤回闘争の現状と展望、②、シニア協定—外注化攻撃との組織をあげた闘い、③、組織強化・拡大へ向けた取り組みの強化について、闘いの展望が明らかにされた。

一般経過報告(方針(案))を一括提起をしたあと、質疑に入

り
①、一二・二ダイ改後の行路別実態調査を乗務員分科会を中心に行なう。

②、三〇五四Mの案件について粘り強く要求していく。

③、検修部門の合理化案件についてどのようなものがあっているのか。

④、検査周期の延伸があがっている。運転保安上からも問題があり、反撃していかねばならない。

⑤、海浜幕張駅で武蔵野線乗り継ぎがダイ改後行なわれるようになり、列車によっては、快速列車で多客によりドア扱いが困難になるなど、遅れが発生しているのが現状だ。乗り継ぎ時分の設定に問題がある。改善を求めるべきだ。

⑥、営業において、運賃の一部相違に関して、取扱方法、払戻し等、支社間の取扱など、具体的なものをきちんとした形で会社は出すべきだ。

等々の質疑応答を行い、二〇〇〇年度役員を選出し、動労千葉の三大闘争貫徹に向け、全体が意思統一を行なった。

支部長	石川 義雄
副支部長	鈴木 文男
書記長	白鳥 茂
執行委員	斉藤 市郎
	渡辺 照信
	平野 文雄
	後藤 貴
	吉清 信弘
	野村 康哉
	関 寿

鴨川支部大会開催

12月11日/民宿神田

12月11日、「民宿神田」に於いて、鴨川支部第6回定期大会が開催された。

大会は大野さんを議長に選出して開会。冒頭あいさつにたった照岡支部長は、「鴨川支部は、退職や異動などによって本区は12名、営業関係の配転者9名という人数になったが、駅にださ

れている仲間たちと団結して一年間闘ってきた。この間組織拡大ということで支部全体で頑張ってきたが、これからも組織拡大を一番にやっていきたい。また一〇四七名の解雇撤回闘争やシニア制度—業務の外注化反対闘争、動員その他、団結の強さを会社にアピールできるような闘いをこれからもやりぬきたい」と提起した。

また来賓には、水野勝浦市議、中村御宿町議、本部田中書記長が参加した。水野市議からは、勝浦市議会にだされた一〇四七名問題の解決に関する議会決議要請について、地元千葉で採用差別を受けているのは動労千葉の組合員であるにも係わらず、それを無視するような要請が行われていることに対し、その非常識さに抗議したことなどが報告され、中村町議からは、一〇四七名の当該としての闘いの決

意が述べられた。また本部からは、この一年間の闘いの総括、JRや労働運動をとりまく情勢、21世紀に向けた取り組みの報告が行われ、その後、執行部から議案、財政方針が提起され、活発な質疑が行われた。

討議では、JR総連・革マルをめぐる動き、駅と本区の団結のあり方、来年の闘争方針などがだされ、満場一致で新たな闘いの方針が採択され、別掲のとおり新執行部を選出した。

また大会終了後には、勤務で参加できなかった組合員もかけつけて懇親会が開かれ、来年度の支部旅行等の取り組みなどについて話し合いがもたれ、和気あいあいの雰囲気の中で、和より一層の団結を固め大会は大成功のうちに終了した。

1000年度新役員

支部長	照岡 清一
副支部長	関 登喜雄
書記長	大藤 守紀
執行委員	奈良 輪孝
	富川 秀樹
会計監査	恋塚 三喜男
	出水 寿和